

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和3年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和4年2月28日(月) 午後1時30分から午後2時50分まで
- 3 開催場所 水戸市役所中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 笹瀬 佐代子, 谷萩 美智子, 大竹 隆志,
鹿倉 よし江, 山辺 太, 浅川 宗典, 羽石 英司, 大谷 一宏
 - (2) 執行機関 【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮
副参事兼課長補佐 入野 高司
協働係長 浅川 勝彦, 主事 矢部 明日香
【泉町周辺地区開発事務所】技監兼所長 大和 直文
事業推進係長 小林 健典
主幹 吉元 一真
【介護保険課】課長 荻沼 学, 副参事兼課長補佐 鯉渕 紀子
【公園緑地課】課長補佐 菅本 智克, 千波湖係長 秋葉 健介
【観光課】企画物産係長 篠原 純一郎, 主事 舘 かほる
【農政課】企画係長 長谷川 修
ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀
 - (3) その他 NP0法人セカンドリーグ茨城
特定非営利活動法人ちいきの学校
NP0法人Happyリレーいろいろ
常磐大学地域連携センター
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る
令和4年度提案事業の公開プレゼンテーション(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
 - ① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。

- ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人

8 会議資料の名称 令和4年度提案事業の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

委員長	ただ今から，令和4年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」のプレゼンテーションを始める。提案のあった5事業について，提案団体と市担当課から，事業の概要，協働による効果，役割などについて発表していただく。なお，審査を行っていく上で，委員の中で，提案のあった団体に所属する，または，密接な関係にある場合には，その提案事業の審査から外れるものとする。
提案団体 泉町周辺地区開発事務所	〔発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業〕
委員	厳しい状況で，事業実施ができなかったのはわかる。しかし，実施予定であったパブリック空間のモデル体験も実施できなかったのか。
提案団体	今年度は，芸術館と新市民会館との間にあるパブリック空間を封鎖して，歩行者天国等のイベントを行う予定であったが，コロナ禍であるため，中止を余儀なくされた。来年度は，イベントに対する感染防止，対策等の知見を吸い上げながら，工夫を重ねて実施に向けて進めていきたい。
委員	新型コロナウイルス感染状況の見通しが立たない中での活動になるので，工夫は必要である。ポストコロナではなく，ウィズコロナとなっていく可能性が高くなっているので，活動は大変であろうが，工夫をして頑張してほしい。
提案団体 介護保険課	〔発表：介護助手養成 ちいすけ水戸〕
委員	以前，研修会を見学したが，素晴らしい内容だった。これからもパワーアップして，アクティブシニアの三方よしにつながってほしい。実績が出ていると思うが，参考までに過去の就労人数を教えてください。
提案団体	1年目が9名，今年度6名，2年間で計16名である。先日，2月開催の研修会を行ったばかりのため，もう少し増える予想である。

委員	研修会に参加して感じたことは、参加者の皆さんが楽しそうであったことが印象的である。今後も継続して活動してほしい。
委員	自分も参加した先日の研修会見学では、楽しそうな雰囲気の中で、事業者も心待ちにしているようで、マッチングの可能性を感じた。現在の研修だと、1日で修了することになっているが、研修内容は1日で収まっているのか。また、令和4年度の事業内容に大学生とのコラボとあるのは、どういった方法で行いたいと考えているのか。
提案団体	カリキュラムの内容については、直接、周辺業務に結びつけるのは厳しいが、介護事業所や介護の仕事への不安を和らげたり、相談するきっかけや入口を作ったりすることが目的である。本事業を受講して、受講者には介護職について知ってもらうとともに、実際に見学し、事業所のニーズを理解してもらいたい。
委員	事業所への周知には、どれだけ力を入れているのか。案内を出している事業所数が分かれば教えてほしい。
提案団体	まず、事業所を対象とした本事業の説明会を行っており、水戸市を通じて周知している。その他、介護事業所のネットワークを活かし、約20の事業所に向けて案内をしている。その中で、研修会の日程に合う事業所には、当日参加してもらう流れになっている。研修会1回あたりの参加事業者数は、平均して5～6である。 また、大学とのコラボでは、昨年度の実績として、大学生には研修会にカメラマンとして参加してもらった。今後は、水戸市との協働により、茨城大学や常磐大学、介護福祉養成校等の専門学校の学生達とコラボし、若い人達に対する支援・人材の確保を行う文化を作っていきたい。
提案団体 公園緑地課	〔発表：公園にハートいっぱいの種を蒔こう〕
委員	昨年の暑い時期に、事業の現場を見させてもらい、また、今回の説明を聞いて、森林公園は提案事業者の活動によって、いつも綺麗でいるのだと感じた。1つ疑問があるのが、本来の事業の目的は、子ども食堂や生活困窮者向け支援であったと思うが、今回の提案を見ると、対象範囲が広いのではないかと考える。ニーズから考えると、事業内容を広げることは厳しいのではないかと。また、365日活動しているとのことだが、ボランティアの観点からすると、続けていけるのか、事業協力者も継続して活動を行えるのかが不安である。対象範囲の的を絞って、継続していったほしい。 さらに、生き抜く力を育てるとあるが、どこまで子供たちに教育できるのか。どこまで考えがあって、実行できるのかを教えてください。
提案団体	多くのことに手を出しすぎているのではないかという点については100人中100人が言っている。ボランティアは1度やったら、止められない。毎日悩んで、毎回手探りでいるので、皆さんには、実際に森林公園に来て、アドバイスがほしい。また、現在16名のスタッフが一生懸命に取り組んでいるので、今後、後継者を育てたいと思っている。 生きる力ではなく、生き抜く力を子供たちに伝えている。
委員	後継者ができるまで、継続していったほしい。

委員	事業内容の中で、学童保育や放課後デイサービス、フリースクール等についての記載がある。コロナ禍において、ニーズは増えていると聞けるが、どのように展開していく予定か。
提案団体	子どもたちには、家の中にいるよりも、保健衛生上、1日1回は公園に来て、外で何かを学ぶ機会を作りたい。例としては、マスクの着け方や、ソーシャルディスタンスを教えたい。これこそが生き抜く力につながっていると考えます。
委員	継続できるように、頑張ってもらいたい。
提案団体 観光課	【発表：水戸の観光土産品付加価値創出事業】
委員	事業の1つとして、アンケート調査とあるが、パッケージデザインについてのアンケートを行うのであれば、実際に水戸に来ようと考えている潜在的な観光客層に対しての働きかけが必要だと考える。具体的にどのような調査対象者を想定しているのか。
観光課	アンケートの内容は、梅まつり会場にて、実際に作成した試作品を見て、どちらが魅力的かを判断してもらうことを考えている。そのため、潜在的な観光客層ではなく、水戸に観光に来た方がメインとなる。潜在的な観光客層を対象に含めるかどうかについては、事業内ワークショップにおいて検討していきたい。
委員	これから作成するパッケージの効果をみるための調査という認識でよろしいか。
観光課	その通りである。
委員	特定の商品を選定してデザインをするのか、デザインが先で事業者へ提案するのか教えてほしい。
提案団体	具体的にどの商品のパッケージリニューアルを行うかは、ワークショップの中で検討していきたい。現在、水戸市優良観光土産品リストを見ながら検討しているが、納豆や吉原殿中等の定番商品や、若い層に受けが良いと考えられるシェーブル館のレアチーズタルトのパッケージ刷新をしてみたいと考えている。
委員	パッケージだけにこだわる理由は何か。消費者の立場から言うと、パッケージよりも特徴をわかりやすくしたネーミングのほうが購買力が高まると思うが、どのように考えているか。
提案団体	手に取りやすいことに加え、SNSでの映えを考えた結果、パッケージに力を入れることとした。今後、SNSでの宣伝を行うので、その中でパッケージだけでなく、商品の特徴をリアルに伝えられるよう工夫していく。
委員	水戸に来た友人を案内した際に、どのようなお土産を買うか見ていたところ、定番の商品のほかに、新しい傾向として、商品にストーリーがあり、

	水戸で買うことに価値のある物を買う傾向にあるように思う。今後は見栄えも必要だが、ストーリーにも注目して説明、開発してもらえればと思う。
委員	商品の特徴や特性を明確に打ち出すことと、ストーリー性は重要だと思う。事業内容でデザイナーが入っているとなっているが、すでに決定しているのか。
観光課	デザイナーの選定についても、ワークショップの中で検討したい。近隣市町村を参考にしながら、県内または近郊のデザイナーを選んでいきたい。
委員	現時点では決定していないとなると、3月までのパッケージに関するアンケート調査には間に合うのか。
観光課	デザイナーの選定については、試作品の制作を鑑みて、11月ごろを目途に決めていく予定である。
提案団体 ふるさと農業センター	〔発表：キッズトレイルランニング大会〕
委員	期待しているところではあるが、コロナ禍ではあるものの、自然の中での活動という点では、工夫をすれば実施できるのではないかと。
ふるさと農業センター	意見を踏まえて、検討していきたい。
委員	収支計画がアバウトだと感じる。レンタル費とは何か。
農政課	備品レンタルについては、タイムをカウントする機械や、レースを運営するにあたって必要な備品にかかる費用となっている。
委員	ストップウォッチ等のことか。もう少し詳細に記載すると委員も理解しやすいと思うので、検討されたい。
委員	収入の大会参加費徴収の明細はどのようになっているか。
農政課	参加費を1人1,000円として徴収し、給水ポイントでの消耗費に使用する予定である。200名参加予定であるため、200,000円の算出である。
委員	参加する親と子で、料金に違いはあるのか。
農政課	同じ料金の予定である。
委員	コロナの影響で、過去2年間採択されたにも関わらず、活動できなかったところではあるが、今年度については何かしらの工夫の元に事業を実施していくということによろしいか。それとも、コロナの影響で令和4年度も活動は難しいということになるのか。
ふるさと農業センター	過去2年間については、万一感染者が出た場合に、トレイルランニング

業センター	へのマイナスイメージになりかねないとの懸念から、中止せざるを得なかった。しかし、新型コロナウイルスの感染者がゼロにはできない中で、令和4年度については実施したいと考えている。
委員	参加者200名を予定しているとあるが、コロナ禍において200名は多いように感じる。コロナ前の参加者数はどのようなになっていたのか。
農政課	2年前に提案したが、以降一度も開催していないため、コロナ前に開催したことがない。参加者数については状況を見て判断したい。参考として、過去に別の事業で、親子のトレイルランニングコース体験活動を行い、100名程度集まったことがあるので、200名は集まるかと予想している。実際にコロナ禍で開催するにあたっての参加者数については、意見等も踏まえ検討していきたい。
委員	参加者数の検討と、コースの短縮等の検討も必要かと考える。
委員	成沢トレイルを大会のため一時的に占有することの許可とあるが、森林公園全てを一時的に占有するということか。
ふるさと農業センター	一般の方が来るところは、成沢とは別の場所であるため、通常通り使用できる。成沢のコース内に限り、一時的に占有することになる。
委員	そのことについて周知が必要ではないか。
ふるさと農業センター	周知していきたい。

上記に相違ないことを確認する。

委 員

委 員